霞城

KAJYŌ

第20普通科連隊広報紙 発行所/山形県防衛協会

第20普通科連隊ホームページアドレス
https://www.mod.go.jp/gsdf/neae/6d/unit_hp/20i_hp/index.html

第20普通科連隊 検索

No.723

ホームページはこちらから！

「令和4年度 第3中隊激戦制す 連隊銃剣道競技会」を実施

「連隊朝礼及び令和5年連隊訓練始め」を実施

20連隊、新年を迎える

朝日町非公式PRキャラクター「桃色ウサヒ」が駆け付け会場を盛り上げた

Contents

2ページ
- ●第３中隊激戦制す「令和４年度連隊銃剣道競技会」を実施
- ●令和４年の締めくくり「連隊年末行事」を実施
- ●１名が転入「転入者紹介行事」を実施

3ページ
- ●20連隊、新年を迎える「連隊朝礼及び令和５年連隊訓練始め」を実施
- ●大会の円滑な運営に寄与「FIS女子スキージャンプワールドカップ2023蔵王大会」に協力
- ●「山形県鶴岡市における人命救助活動に係る災害派遣」を実施

4ページ
- ●連隊の活動に対する理解深める「令和５年度翔山会役員会・総会」に参加
- ●「令和４年度駐屯地成人祝賀式」に参加
- ●隊員紹介コーナー
- ●定年退官者紹介
- ●拳法訓練隊成績紹介
- ●昇任おめでとう！
- ●各種表彰
- ●２月行事予定

2023 January 1

「令和4年度 第3中隊激戦制す 連隊銃剣道競技会」を実施

各人が勝利を追求し激戦を繰り広げた

12月20日(火)、神町駐屯地体育館において「令和4年度連隊銃剣道競技会」を実施した。

16日(金)、競技会に先立ち開会式が行われ、統裁官(連隊長　荒木1佐)は「普通科部隊隊員として戦勝の追求」「中隊の団結強化」「安全管理・健康管理」の3点を要望し「各中隊が競技会の目的を達成するために全力で取り組むことを期待する。」と訓示を述べた。

本競技会は、応援者の人数制限、確実なマスク着用、声援での応援禁止、選手はフェイスシールドを着用するなど、新型コロナ感染症対策を万全にし実施された。

競技は、中隊対抗の部リーグ戦、決勝トーナメントのほか、個人戦として幹部自衛官の部及び女性自衛官の部(オープン参加)が実施された。中隊対抗戦では、「先鋒」2士から士長3名、「中堅」士長から3曹4名、「副将」3曹から2曹3名及び「大将」中隊長等1名の計11名が優勝旗をかけた熱い戦いを繰り広げた。

選手たちは駆け付けた応援団による拍手等の精一杯の応援を背に、中隊の誇りと名誉をかけて戦い、相手の一瞬の隙をつく気迫のこもった鋭い剣を繰り出した。会場は白熱した攻防を展開する隊員たちの熱気で、雪の降り続く冬の冷たい空気を吹き飛ばす様相を見せた。

特に、中隊対抗の部決勝トーナメントで行われた全試合が、大将戦まで勝ち本数が同じ、大将の勝敗が勝負を決する一進一退の戦いとなり盛り上がりを見せた。激戦の結果、中隊対抗の部は第3中隊が見事優勝、22年ぶりに優勝旗を奪還した。個人戦では幹部自衛官の部において第3中隊　加藤3尉、女性自衛官の部において重迫撃砲中隊　清水3曹がそれぞれ優勝を勝ち取り、競技会は幕を閉じた。

本競技会を通じ、全中隊が目的を達成するために一生懸命に取り組み、2022年を締めくくるにふさわしい競技会となった。

応援者も一体となり戦った

【成績紹介】

○中隊対抗の部
- ・優勝　第3中隊
- ・準優勝　第4中隊

個人戦

○幹部自衛官の部
- ・優勝　第3中隊　3尉　加藤　敢太
- ・準優勝　第2中隊　2尉　伊藤　和正

○女性自衛官の部
- ・優勝　重迫撃砲中隊　3曹　清水　鈴音
- ・準優勝　重迫撃砲中隊　士長　大内　志乃

「連隊年末行事」を実施

令和4年の締めくくり

だるまの目入れ

12月21日(水)、駐屯地体育館において「連隊年末行事」を実施した。

行事では今年1年を総括して各中隊長から成果報告が行われるとともに、連隊長(荒木1佐)によるだるまの目入れが実施された。連隊長は訓示において「令和4年も諸官らの努力の成果もあり大きな事故なく任務に邁進することができた。日頃の取り組みに感謝する。休暇間、心身共にリフレッシュして新年いいスタートが切れるように過ごしてもらいたい。」と述べた。

連隊は令和5年に向け物心両面の態勢を万全に整えるとともに、更なる飛躍を誓った。

連隊長訓示

「転入者紹介行事」を実施

1名が転入

転入者挨拶

令和4年度12月定期異動により教育訓練研究本部(目黒)から佐藤1尉が連隊本部第3科に転入した。

12月2日(金)、駐屯地講堂において「転入者紹介行事」が行われ、転入者(佐藤1尉)が「東北勤務は初だが、これまでの勤務経験を少しでも還元して、部隊の精強化、任務完遂に貢献していきたい。」と挨拶し、20連隊勤務の決意を新にしていた。

「連隊朝礼及び令和5年連隊訓練始め」を実施

20連隊、新年を迎える

盛り上がりを見せたLAV手押し競走

連隊長だるまの目入れ

1月10日(火)、駐屯地講堂において「連隊朝礼」を、駐屯地営庭において「令和5年連隊訓練始め」を実施した。

連隊朝礼では、各中隊を代表して年男・年女が今年1年の抱負を元気溌剌と発表したほか、最先任上級曹長及び各中隊長がだるまの目入れを実施した。最後に連隊長が目入れを行い、年頭の辞を述べた。

連隊長は年頭の辞において「今年1年が飛躍の年になるように、各人が目標を持ち、充実感、やり甲斐を感じられるように、一生懸命任務に取り組んでもらいたい。また健康管理に留意しつつ、統率方針である『ひとに優しく仕事に厳しく』要望事項『凡事徹底』『唯一無二』を念頭に置き、今年1年頑張っていこう。」と述べ、連隊の更なる飛躍を祈願した。

引き続き、訓練始めが行われ、自衛隊体操及びLAV(軽装甲機動車)手押し競争を実施した。自衛隊体操では1月1日付で3等陸曹に昇任した15名が体操指導者となり、節度ある動作及び統制のとれた体操を行った。

LAV手押し競争は、連隊本部及び各中隊10名の参加者が各中隊長をLAVに乗車させた状態で約100mの直線を牽引及び手押しで推進させ、熱いレースを繰り広げた。

また、訓練始めには兎年にちなみ、朝日町非公式PRキャラクター「桃色ウサヒ」に参加していただき、ユーモアあふれる動きで自衛隊体操を体験、LAV手押し競争では、連隊本部が押す車両に乗車して参加するなど、隊員たちに笑顔と活気を与えていた。

本訓練には報道各社が取材に訪れ、取材を受けた第1中隊　佐藤直樹1曹は「身の引き締まる思いで臨み、今年一年また頑張ろうと思うきっかけになった。」佐藤賢人3曹は「厳しい天候だったが気持ちで押し切れた。雪もみんなの熱で溶けてしまいそうだった。」と語っていた。

訓練始め行事を終えた隊員たちは、すがすがしい表情で年の始まりを実感しつつ、新たな1年を駆け抜けるための絶好のスタートを切った。

自衛隊体操を体験する「桃色ウサヒ」

LAV手押し競走結果
第1位　第1中隊
第2位　第4中隊

「FIS女子スキージャンプワールドカップ2023蔵王大会」に協力

大会の円滑な運営に寄与

吹雪の中、真摯に取り組んだ

1月7日(土)から16日(月)までの間、アリオンテック蔵王シャンツェ(山形市蔵王ジャンプ台)において開催された「FIS女子スキージャンプワールドカップ2023蔵王大会」に協力した。

本協力は、協力隊長(第3中隊　野崎曹長)以下37名が参加し、協力内容は飛距離判定、競技会場及びコース整備・維持、気象計測と多岐にわたった。

協力隊は7日に現地入りし、準備から大会当日まで終始、大会役員と綿密な調整を実施し、順調に作業を進めた。特に急斜面での作業を行う際、互いに声を掛け合いながら安全管理に留意しつつ、確実に作業を進めていた。

協力隊は、積雪が多い状況や急変する山の天候に臆することなく、献身的な協力を行った。

「山形県鶴岡市における人命救助活動に係る災害派遣」を実施

現地へ前進

連隊は令和4年12月31日(土)から令和5年1月2日(月)までの間、鶴岡市において「山形県鶴岡市における人命救助活動に係る災害派遣」を実施した。

12月31日0100頃、鶴岡市西目の集落の裏山で幅100m、高さ20～30m規模の土砂崩れが発生、行方不明者が出ている状況となった。同日0630吉村美栄子知事からの災害派遣要請を第6師団長(鬼頭陸将)が受理した。連隊は非常勤務態勢に移行し、初動対処部隊を被災地に派遣するとともに鶴岡市役所に連絡員を前進させ、被害状況及び自衛隊へのニーズの把握を実施した。じ後、連絡員からの情報をもとに速やかに重迫撃砲中隊を主力に各中隊から1コ小隊を増強し、約110名の派遣部隊を編成し、人命救助活動に従事した。

警察・消防と協力して捜索

人命救助活動は大晦日から元日も含め3日間、雨や雪の厳しい天候のなか昼夜を問わず約60時間続いた。隊員たちは第6施設大隊の重機と共に警察・消防と協力し、倒壊家屋のがれきや土砂を撤去して、緊急車両の通路を確保するなど要救助者の捜索に真摯に取り組み、民生の安定に寄与した。

第6施設大隊の重機と共に倒壊家屋のがれき等を除去

2月行事予定

1月26日(木)～2月5日(日)
・天童高原スノーパークフェスタ協力

3日(金)～11日(土・祝)
・全国高等学校スキー大会協力

5日(日)～13日(月)
・新庄雪まつり協力

13日(月)～17日(金)
・第4次基礎となる部隊の訓練検閲

19日(日)　・連隊創立67周年記念行事

23日(木・祝)　・第18回第6師団音楽まつりに参加

各種表彰

【連隊長褒章メダル】
（連隊長伝令下番の功績）
・重迫撃砲中隊　士長　石澤　智

【東北方面混成団長より褒賞状】
（第14期陸曹中級課程において成績優秀）
・第1中隊　2曹　簾内　輝

【第2陸曹教育隊長より褒賞状】
（第14期陸曹中級課程において成績優秀）
・第3中隊　2曹　矢作　菜生

【第3陸曹教育隊第一普通科教育中隊長より褒賞状】
（第161期初級陸曹特技課程「ATM」教育において成績優秀）
・本部管理中隊　3曹　大場銀次郎

【12月警衛勤務優秀らっぱ手】
・第1中隊　3曹　新田　稜
（8日上番）

連隊の活動に対する理解深める

「令和5年度翔山会役員会・総会」に参加

記念撮影

12月8日(木)、厚生センター多目的ホールにおいて実施された「令和5年度翔山会役員会・総会」に第1科長(大木3佐)、広報室長(五十嵐曹長)が参加した。

総会に先立ち、連隊長(荒木1佐)は「連隊の精強化、任務完遂に数々の格別なるご支援ありがとうございます。引き続き連隊の活躍を温かく見守っていただければ幸いです。連隊は今後も真摯に教育訓練、隊務運営に励み、皆様のご期待に応えられる様に精進してまいります。」と挨拶した。

また、10月に会長を辞された天童木工株式会社　取締役会長　加藤昌宏様から「山形県の旗本連隊である20連隊の存在価値は素晴らしいと思料します。今後の活躍を祈念致します。」とご挨拶を頂いた。さらに、新たに会長に就任された藤庄印刷株式会社　代表取締役会長　小嶋信一様の紹介が行われ、会長挨拶において「自衛隊の存在価値が問われる情勢のなか、んでまいりたい。」と力強いお言葉を頂いた。

その後、第1科長より令和4年度の連隊訓練成果、令和5年度の訓練・行事予定等を説明したほか、広報室が作成した連隊の活動状況の紹介映像を放映し、連隊に対する理解を深めていただいた。

「令和4年度駐屯地成人祝賀式」に参加

1月13日(金)、神町駐屯地食堂において行われた「令和4年度駐屯地成人行事祝賀式」に連隊から48名の新成人が参加した。

式では、執行者(駐屯地司令　奈良岡陸将補)や来賓者からお祝いの言葉を頂くとともに、昨年成人した先輩隊員から激励の言葉が贈られた。新成人たちはそれぞれの言葉を真剣に聞き、成人としての自覚を新たにしていた。

会場には新成人たちが記念品として自ら作成した「盃」が展示されており、隊員たちは「盃」に刻んだ抱負を家族に紹介したり、記念写真を撮影する等、家族との時間を楽しんでいた。

式終了後、報道各社が取材に訪れ、取材を受けた第1中隊　齋藤　葵士長は「これまで以上に行動や言動を考えながら生活を送り、先輩方の良い部分を吸収しながら成長していきたいです。」と抱負を語った。

新成人自覚新たに

連隊の新成人たち(中央:連隊長、最先任上級曹長)

記念品として作成した「盃」
作:第3中隊　海老名士長

昇任おめでとう！
（令和5年1月1日付）

○3等陸佐へ
・連隊本部　佐藤　康平
○2等陸尉へ
・連隊本部　吉田　正人
○准陸尉へ
・第2中隊　新山　貴也
同　伊藤　周央
・第3中隊　今野　一博
○陸曹長へ
・本部管理中隊　菊地　政和
同　髙野　慎也
・重迫撃砲中隊　青木　誠
○1等陸曹へ
・本部管理中隊　佐藤　安典
同　稲村　光義
・第1中隊　新野　直彦
・第2中隊　大沼　史明
・第3中隊　新山　雄大
○2等陸曹へ
・本部管理中隊　八木　亨
同　花田　莉緒
同　佐藤　真咲
・第2中隊　有路　圭佑
・第3中隊　伊藤　徹
○3等陸曹へ
・本部管理中隊　阿蘇　拓矢
・第1中隊　新山　智也
同　工藤　柊太
同　阿部　響
・第2中隊　武田　彪冴
・第3中隊　高橋　京史
同　寺崎　幹太
・第4中隊　菅原　佑太
同　太田　龍馬
同　鈴木　優太
同　齋藤　京佑
同　細谷　龍聖
・重迫撃砲中隊　金子　潤希
同　渡辺　草太
同　滝口　真冴
○陸士長へ
・本部管理中隊　鈴木　智也
・本部管理中隊　梁瀬　和麻
同　黒沼さくら
同　阿部　蘭
同　高橋　真由
・第1中隊　髙橋　優空
同　佐竹　優斗
同　吉見　元喜
同　佐藤　伶耶
同　笠原ほのか
・第2中隊　土田　奏汰
同　柿崎　寛栄
同　千場　莉玖
・第3中隊　荒川　譲
同　佐藤　祐輝
同　阿部　玲虎
同　海老名美咲
同　森　美久
・第4中隊　齋藤　怜司
同　秀島　遥太
・重迫撃砲中隊　遠藤　珠華
同　高橋　咲羽
同　吉田　龍翔
同　福本さくら
○1等陸士へ
・本部管理中隊　砂田　航
同　渡部　大河
同　千田　拓
同　佐々木　流
・第1中隊　矢口　靖文
同　渡邊　朝陽
同　遠藤　翼
・第2中隊　狩野　輝隻
同　甲州　大地
同　浅野　和奏
・第3中隊　鈴木　魁真
同　山田　聡太
同　平野　弘太
・第4中隊　佐藤　大夢
同　鈴木　涼斗
同　川井　奨吾
同　鈴木　音彩
・重迫撃砲中隊　伊東　春希
同　岸　裕基
同　安部　らら

定年退官者紹介

永年の勤務、お疲れ様でした。

・重迫撃砲中隊
・石川　輝明　曹長
・12月7日付
・庄内町在住

・本部管理中隊
・佐藤　祐助　曹長
・12月24日付
・上山市在住

・第3中隊
・永岡　義也　3尉
・12月26日付
・天童市在住

・本部管理中隊
・細谷　潤　3尉
・12月29日付
・天童市在住

・第2中隊
・安食　恵吾　3尉
・1月4日付
・東根市在住

隊員紹介コーナー

新成人の抱負

本部管理中隊　梁瀬　和麻　士長
○コメント
社会人としての自覚を持ち、何事にもチャレンジしていきます。お世話になった方々に恩返しできるように頑張ります。

第1中隊　佐竹　優斗　士長
○コメント
無事、成人を迎えることができ、これまで自分に関わってくれた方々、そして家族に感謝しています。これからは信頼される人になれるように頑張ります。

第2中隊　小野寺一隼　士長
○コメント
二十歳という節目の年を迎えることが出来ました。より一層強い責任感と自覚を求められると感じるので「常に心に制服を」という言葉を胸に個人の充実を図っていきたいです。

第3中隊　安達　大和　士長
○コメント
成人としての自覚と責任をもって行動し立派な大人になれるように頑張ります。また親をはじめお世話になった方々に感謝し、恩返しできるように頑張ります。

第4中隊　金子　瑞希　士長
○コメント
明けましておめでとうございます。二十歳になった事を自覚し、これまで以上に責任感をもって日々の生活を過ごしていきたい。また、多様な任務を完遂できる隊員となれるよう高い志を持ち、若さと情熱を武器に邁進していきたい。

重迫撃砲中隊　高橋　咲羽　士長
○コメント
私は成人になって大きな目標を一つ立てました。それは人としてより一層成長することです。その目標を達成するために、今までよりも様々な知識を得て、どんな場面でも臨機応変に対応できるように日々過ごしていきたいと思います。

拳法訓練隊成績紹介

【第18回東北自衛隊拳法選手権大会】

○団体戦
・優勝　第20普通科連隊Aチーム
〈選手紹介〉
第4中隊　島貫1曹
同　三宅3曹
重迫撃砲中隊　千田2曹
同　田村3曹
同　大場3曹
同　秋元3曹
第2中隊　今野3曹
第3中隊　中川3曹

団体戦11連覇おめでとう！

○個人戦
・中量級
優勝　第4中隊　島貫1曹
第3位　第3中隊　中川3曹
・重量級
第3位　重迫撃砲中隊　秋元3曹
・無差別級
第3位　第4中隊　三宅3曹

なお、個人戦に参加したすべての選手がベスト16入りの成果を修めた。

また、団体Aチーム及び個人戦入賞者は3月に全自衛隊拳法選手権大会に参加します。

令和五年一月三十一日発行　発行所／山形県防衛協会　印刷／藤庄印刷株式会社